

# 第3次当別町生涯学習推進計画 の評価・検証報告書 (平成22年度)

1. 評価・検証について
2. 社会教育委員による当別町生涯学習推進計画評価・検証の流れ
3. 平成22年度当別町生涯学習推進計画評価シート

当別町教育委員会

## 評価・検証について (第3次当別町生涯学習推進計画より抜粋)

### Why?

なぜ、評価が必要なのか？重要なのか？

- ①5ヶ年計画であることを考えると、1年ごとの検証・見直しが必要である。
- ②一般的に前例踏襲という風潮がある中で、今後よりよい成果を生むためのステップとして、分析・判断などの評価がとても重要である。
- ③行政側のみが単独で行う評価ではなく、第三者評価が入ることにより、評価がより明確化される。ただし、誰もが関わりやすい評価の仕方・検証を重視

### Who?

だれが、評価をするのか？

- ①事業を行った職員、機関、団体あるいは担当者＝自己評価
- ②各年度毎に社会教育委員＝他者による評価・第三者評価

### What?

なにを、評価するのか？

- ①生涯学習推進計画の各期くさらに発展させていきたいこと>を中心に評価・検証する。
- ②各事業の結果（各事業の参加者数や参加アンケート等を参考）を評価する。 ※1
- ③各事業の成果や効果（各事業における波及効果等を参考）を評価する。 ※2

### When?

いつ、評価するのか？

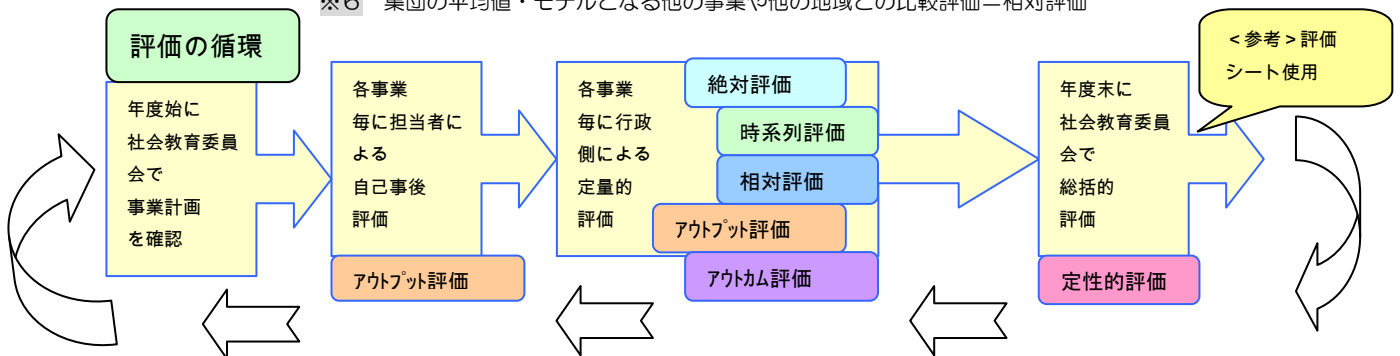
- ①各事業終了後に事後評価する。
- ②総括的評価を年度末の社会教育委員会にて行う。
- ③結果を、教育委員会HPに掲載し、新年度に生かす方策を検討する。

### How?

どのように、評価するのか？

- ①<参考>評価シートを使って、質・量(※3)をとらえての意見交換をし、評価・検証する。
- ②解釈の基準（3つの評価を前提にしながらの、総合的な意見交換を行う。）
  - (1)一定の基準を設けて、それに達しているかどうかの評価 ※4
  - (2)過去から同じインターバルで測定した結果から達成度・傾向性などを評価 ※5
  - (3)集団の平均値・モデルとなる他の事業や他の地域との比較評価 ※6

- ※1 事業の結果について評価＝アウトプット評価      ※2 事業の成果や効果について評価＝アウトカム評価  
 ※3 質をとらえての評価＝定性的評価、量をとらえての評価＝定量的評価  
 ※4 一定の基準を設けて、それに達しているかどうかの評価＝絶対評価  
 ※5 過去から同じインターバルで測定した結果から達成度・傾向性などを評価＝時系列評価  
 ※6 集団の平均値・モデルとなる他の事業や他の地域との比較評価＝相対評価



<参考引用>北海道立生涯学習推進センター調査研究報告書第22号（平成18年3月発行）  
 社会教育行政の評価に関する調査研究 ～ 定量的評価の指標について～

## 社会教育委員による第3次当別町生涯学習推進計画の評価・検証の流れ

### 評価する際の判断材料

- ①事業視察
- ②社会教育課担当による事業評価、学校教育評価票
- ③教育委員会担当職員への聞き取り

### 第1回社会教育委員会（4月27日）

- ・評価方法の説明

### 5月～

- ・各委員にアンケートを取り「事業評価・検証評価委員分担表」を作成。
- ・各委員に毎月初めに「社会教育課内月間行事予定表」を送付。
- ・各委員は分担表に基づき事業視察。記録用紙に感想や工夫案を記入。

### 第2回社会教育委員会（12月22日）

- ・社会教育事業評価一覧表（中間報告）、学校教育評価票の提示
- ・各社会教育事業の評価についてディスカッション

### 3月上旬～中旬

- ・各委員に下記シートを送付
  - ①「当別町生涯学習推進計画評価シート」
  - ②「社会教育事業評価一覧表」
- ・各委員はシートに評価を記入し、教育委員会へ提出
- ・教育委員会は各委員から提出された評価シートを集計

### 第3回社会教育委員会（3月23日）

- ・評価シート集計を参照しながらディスカッション
- ・期別に「現状の満足度」「今後の重要度」をまとめる。

評価は、23年度単年計画へ反映させる。

ただし、予算が関わる事業については24年度に反映させる。

# 平成22年度当別町生涯学習推進計画評価シート

現在の当別町が支援している生涯学習についての評価・検証について（年度毎に社会教育委員で行う）

設問項目 当別町生涯学習推進計画 自己のライフプラン (各期さらに発展させていきたいこと)	現状の満足度					今後の重要度				
	満足 [5]	やや満足 [4]	やや不満 [3]	不満 [2]	わからない [1]	特に重要 [5]	重要 [4]	あまり重要でない [3]	重要でない [2]	わからない [1]
<乳幼児期（保育所・幼稚園など）> ①町内の各子育てサークル等の団体活動の促進 ②幼稚園・保育所の一体化に向けた子育て環境の促進 ③体験育（体験でふれあい、体験で学び、体験で育つ） ④本育（本にふれあい、本に学び、本で育つ） ⑤交流育（交流でふれあい、交流で学び、交流で育つ）	やや満足 [4]					特に重要 [5]				
<少年期（小学校）> ①学習育1（学ぶことの楽しさを知り、意欲的に学び、学びの中で育つ） ②徳育（道徳でふれあい、道徳に学び、道徳にて育つ） ③活動育（活動でふれあい、活動で学び、活動で育つ）	やや満足 [4]					特に重要 [5]				
<少年期（中学校）> ①学習育2（様々な学習にふれあい、様々な学習を学び、様々な学習社会で育つ） ②リダー育（リダーとしてのふれあい、リダーとしての学び、リダーとして育つ）	やや満足 [4]					特に重要 [5]				
<少年期（高等学校など）> ①公共育（地域社会とふれあい、公共心を学び、地域社会で育つ） ②ボランティア育（ボランティアにふれあい、ボランティアを学び、ボランティアで育つ）	やや満足 [4]					重要 [4]				

・親子で楽しめる機会の充実と、親同士の交流が大事。  
 ・父親の読み聞かせなど家庭教育に参加を促す事業も大事。  
 ・幼児と親の集いは母親同士の情報交換の場となっていてよい。

・子どもたちの体験活動の機会充実が大事。  
 ・少年の意見発表会は、子どもたちの自由な意見が聞ける貴重な機会だったので継続してほしい。  
 ・通学合宿では参加の小学生はとても楽しんで活動していた。  
 ・スポーツ事業でけががあった、食生活改善協議会と協力して体をつくる栄養について考える取組も大事。

・小中高生TOWNミーティングは、自分たちで取り組みを決めて実施するということが意味がある。よい経験になったと思う。清掃活動も一生懸命やっていたよかった。  
 ・これからの時代ネット巡回はますます必要となる。  
 ・インターネットの普及で小中高校生とも辞書や図鑑を開いて調べものをするのが少なくなっている。自分の手で書籍を開いて調べることも大切なこと。

・事業数を増やさなくても、今ある事業を地道に続け高校生に対して参加を促していけばよい。事業に参加する中で地域とのつながりを感じてもらえるはず。  
 ・高校生に対しては子供としてのアプローチではなく大人としてのアプローチをする必要がある。

<p>&lt;青年期（大学など）&gt;  ①コミュニティー活動、地域行事への参加  ②文化・スポーツ活動への参加</p>	やや満足 4	重要 4
<p>&lt;成年期&gt;  ①コミュニティーにおける地域活動への積極的な参加  ②妊娠・出産・育児・教育への適切な対応  ③心身の健康保持</p>	やや満足 4	重要 4
<p>&lt;壮年期&gt;  ①地域の人材を活用した人材バンク登録制度（とうべつ知恵袋）の拡大  ②地域全体で学校を支援する学校支援地域本部事業の促進  ③「当別町青少年健全育成町民のつどい」の効果的な実施  ④安全な生活、防犯・防火・防災活動</p>	やや満足 4	重要 4
<p>&lt;熟年期&gt;  ①地域の歴史や文化の伝承  ②生活の知恵の伝承、習得した専門的知識・技能の社会への還元</p>	満足 5	特に重要 5
<p style="text-align: center;">合 計</p>	33 / 40	36 / 40